

平成23年度第13回定例会

八王子市教育委員会会議録

日	時	平成23年11月16日(水)	午前9時
場	所	八王子市役所 5階	502会議室

第 1 3 回定例会議事日程

1 日 時 平成 2 3 年 1 1 月 1 6 日 (水) 午前 9 時

2 場 所 八王子市役所 5 階 5 0 2 会議室

3 会議に付すべき事件

第 3 9 号議案 八王子市立学校教職員人事の内申に関する事務処理の報告について

4 報告事項

- ・「ゆめおり教育フォーラム」の実施結果について (教育総務課)
- ・死亡者叙位の受章について (指導課)
- ・平成 2 4 年度成人式について (生涯学習総務課)

八王子市教育委員会

出席委員 (5 名)

委 員 長	(1 番)	小田原 榮
委 員	(2 番)	和 田 孝
委 員	(3 番)	川 上 剋 美
委 員	(4 番)	金 山 滋 美
教 育 長	(5 番)	石 川 和 昭

教育委員会事務局

教 育 長 (再 掲)	石 川 和 昭
学 校 教 育 部 長	坂 倉 仁
学校教育部指導担当部長	佐 島 規
教 育 総 務 課 長	穴 井 由 美 子
学 校 教 育 部 主 幹 (企 画 調 整 担 当)	平 塚 裕 之
施 設 整 備 課 長	矢 光 克 彦
学 事 課 長	海 野 千 細

学校教育部主幹 (保健給食担当)	山野井 寛 之
指 導 課 長	廣 瀬 和 宏
指導課統括指導主事 (特別支援教育・ 教育センター担当)	藏 重 佳 治
指導課統括指導主事 (企画調整担当)	所 夏 目
指導課統括指導主事 (教育施策担当)	山 下 久 也
指導課前任指導主事	木 下 雅 雄
生涯学習スポーツ部長	榎 本 茂 保
生涯学習スポーツ部参事 (図書館担当)	望 月 正 人
生涯学習総務課長	宮 木 高 一
スポーツ振興課長	小 山 等
生涯学習スポーツ部主幹 (スポーツ施設担当)	遠 藤 幸 保
国体推進室主幹	富貴澤 繁 幸
学習支援課長	小 松 正 照
文化財課長	田 島 巨 樹
生涯学習スポーツ部主幹 (図書館担当)	中 村 照 雄
生涯学習スポーツ部主幹 (図書館担当)	田 中 明 美
生涯学習スポーツ部主幹 (図書館担当)	玉 木 伸 彦
生涯学習スポーツ部主幹 (こども科学館担当)	齋 藤 和 仁
教育総務課主査	遠 藤 徹 也
指 導 課 主 査	古 川 洋 一 郎
生涯学習総務課主査	串 田 欣 司

事務局職員出席者

教育総務課主任	久 保 陽 子
教育総務課主任	最 上 和 人

【午前9時00分開会】

小田原委員長 大変お待たせいたしました。本日の委員の出席は、5名全員でございますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成23年度第13回定例会を開会いたします。

電力不足が心配されている中、いつも申し上げているところでございますけれども、節電に努めているところでございます。今日は若干、消灯させていただいておりますので、御理解いただきますようお願いいたします。

日程に入ります前に、本日の会議録署名委員を指名いたします。

本日の会議録署名委員は、4番、金山滋美委員を指名いたします。よろしく申し上げます。

小田原委員長 それでは、日程に従いまして進行いたします。

日程第1、第39号議案、八王子市立学校教職員人事の内申に関する事務処理の報告についてを議題に供します。

本案について、指導課から御説明願います。

廣瀬指導課長 第39号議案、八王子市立学校教職員人事の内申に関する事務処理の報告について御報告いたします。

詳細につきましては、古川主査から説明いたします。

古川指導課主査 宮上小学校の菊池前副校長が11月15日付で退職となり、その後任者の人事の内申を、東京都教育委員会に11月10日までに行う必要がありましたが、東京都教育委員会から後任者の人事の内報があったのが11月4日であり、教育委員会定例会において審議していただく暇がなかったため、11月8日付で教育長において、事務処理を行いました。

事務処理の内容でございますが、議案の裏面をご覧ください。発令日は、本日11月16日付です。内申の内容でございますが、日野市立平山小学校伊藤智子主幹教諭を宮上小学校の新しい副校長に任命する内容でございます。

このことにつきまして、八王子市教育委員会の権限委任に関する規則第4条第2項の規定により、承認を受けるために、本定例会において上程しているものでございます。説明は以上でございます。

小田原委員長 指導課からの説明は終わりました。

本案につきまして、御質疑、御意見ございましたら、お願いいたします。

和田委員 この方は、管理職選考はいつ合格されているのですか。

古川指導課主査 平成21年度の管理職選考に合格されております。

小田原委員長 そのほか、ございませんか。

それでは、お諮りいたしますけれども、ただいま議題となっております第39号議案
につきましては、御提案のとおり承認することに御異議ございませんか。

{「異議なし」と呼ぶ者あり}

小田原委員長 御異議ないものと認めます。よって第39号議案につきましては、そのよ
うに承認することにいたしました。

小田原委員長 続いて報告事項となります。教育総務課から報告願います。

穴井教育総務課長 それでは、先日行われました「ゆめおり教育フォーラム」の実施結果
について御報告をいたします。

詳細については、担当の遠藤主査から報告いたします。

遠藤教育総務課主査 配付いたしました資料に従いまして、御報告をさせていただきます。

「ゆめおり教育フォーラム」の取り組みにつきましては、昨年度まで「開かれた教育
委員会」という名称にて、シンポジウムや講演会などを実施してきましたが、今年度よ
りさらなる教育行政の発展を目指し、新たな名称「ゆめおり教育フォーラム」として実
施しました。

開催の日時でございますけれども、11月9日水曜日、午後6時から9時、会場は八
王子市立第三小学校の多目的室他で開催しました。

今回のフォーラムは熟議をメインに実施し、教育委員、学校運営協議会関係者、小学
校の校長、中学校の校長、事務局の部長職、合計30名の参加者が「地域運営学校の可
可能性」をテーマに、4グループに分かれて熟議を行い、現状の課題を共有するとともに、
今後のあり方について議論を展開いたしました。

なお、グループごとの熟議の内容につきましては、後日、ホームページにて公開をさ
せていただきたいと思いますと考えております。

今回の来場者数ですが、189名という予想を超える来場者があったことから、メイ
ン会場では急遽いすを出して対応したところでございます。

続いて資料の2ページになります。当日は、アンケートを実施させていただきました。

配付数が189、その回収が105となっておりますので、回収率といたしましては、55.6%となっております。

傍聴者の属性につきましては、今回の熟議では、教職員の方に多く傍聴いただいております。そして、参加した感想を「良かった」「まあまあ良かった」「あまり良くなかった」「良くなかった」の4段階の尺度にて伺った結果、テーマ、熟議、全体、すべてにおいて、おおむね「良かった」といった結果も出ているところでございます。

次に資料の3ページですが、自由記述の質問の回答となります。まず、今後取り上げて欲しいテーマにつきましては、小中一貫教育、特別支援教育などが複数件見られるのが特徴と言えるかと思えます。

最後に「ゆめおり教育フォーラム」の感想、意見についてです。主だったものを挙げますと、「良かった」「参考になった」「充実した会であった」といった意見がある一方、「具体性に欠ける」といった内容や、開催方法の提案に加え、「この会を今後どのように生かしていくか」といった投げかけもございました。これらの意見、感想を今後の「ゆめおり教育フォーラム」に生かしていくと同時に、よりよい教育行政の推進、施策の実現、そのために役立てていきたいと考えております。報告は以上でございます。

小田原委員長 それぞれの立場からの御意見が並べられていますが、「良くなかった」というのがそう多くはないとはいうけれども、「あまり良くなかった」が6名、「良くなかった」が1名ありますが、特に事務局として思われた点はございませんか。

遠藤教育総務課主査 幾つかあるのですけれども、今後この結果をどう活用するのかといったところに非常に注目させていただきました。どう活用するかといったところでは、当初の目的でもございました、熟議の結果を参加者、傍聴者の方々が、それぞれの地域に持ち帰っていただいて実践をいただくということと、さらには、我々事務局の方で解決しなければならない内容につきましても、精査をして実現に向けて取り組まなければならないと感じております。

小田原委員長 特に「良くない」という点で、我々が聞かなければいけない意見というのはどういうところなのですか。

穴井教育総務課長 「良くない」という点については、大勢の方にご来場いただいたことで、会場が狭かったという御意見もございませし、開催している時間が長過ぎたといった御意見もいただいたところですので、開催方法については少し検討の余地があるのかなということです。

初めてのことであったので、ファシリテーターの役割とか、お互いによくわからなかったところもありますので、そういった御意見もたくさんいただいているところです。何回か繰り返すうちに、もう少しテーマとかが絞られてくればわかりやすい会議になっていくと考えています。「良くなかった」という御意見は、ほとんど会場の件とテーマが広過ぎるのではないかと、時間が長過ぎるといった御意見でした。

小田原委員長 要するに、会場が狭いとか、3時間が長いという話ですか。

穴井教育総務課長 はい。

和田委員 参加させていただいた立場で、お話をすると、地域運営学校にかかわっている方々が参加したわけですが、それでも意識の差がすごくあって、その地域、あるいは学校ごとに課題が随分違っていたと思っています。

ファシリテーターを務めた部長も、意見を整理していただいた統括指導主事や管理職も、意見を集約する形でまとめていただいて、話がまとまったというか、方向性、課題は整理されてきたという思いは持っています。

今後は、課題をもう少し整理した中でやっていかないと、毎回毎回、地域運営学校とは何だろうというところから始まっているのは、それだけで相当いろいろな広がりを持ってしまって、どこへ集約していくのかというのが難しい部分が出てくるので、今回のことを生かすとするならば、課題が出てきたところで、課題別であるとか、あるいは地域運営学校の進捗状況、何年目になるのかというあたりで分けていって議論をしていくと、もう少しそれぞれの段階での課題が明らかになってくるのではないかとと思っています。

いろいろな意見が出てきているので、かなり考え方は浸透しているなという印象は持ちましたけれども、まだ課題について、議論をこういうふうにしてしまうと、広がるだけ広がってしまって、熟議という形でのまとめりというのが難しい部分があるかと思えます。

会場の方々との意見交流をもう少ししたかったという思いがあるのですが、先ほどのアンケートを見ると、時間が長過ぎるとい話もあるので、その辺のところは難しいところだと思います。

それからもう一点は、日本で地域運営学校を取り入れているわけですが、海外の例を考えてみると、予算面、人事面がすごい強く出ていて、地域運営学校、コミュニティスクールとしての委員会の権限が非常に強いのです。予算も出すし、寄附もするし、けれども人事にも相当口を出すという形で、そういう形で運営されている海外の例を

見ると、日本はそこまで行かないのだろうと思っているのです。予算も厳しいし、人的な要望は出せるけれども、それが実現するかというとなかなか難しい部分もあるので、地域運営学校の限界と言いますか、やっているものを見て、何でもかんでもできるという構想を立てていくのはいいのだけれども、限界もあるということはある程度示していかないと、予算を出してくれ、人を出してくれ、そうしたら何でもやりますという発想になってしまうと、学校の活性化とか、学校の先生たちと地域の方たちの交流が何か違うところに行ってしまうかなという印象を持ちました。

今は、地域運営学校でできることを模索していく時期だと思いますので、ぜひこういうフォーラムなどを活用して、課題や成果を広めていけるような機会を増やしていただきたいと思います。

穴井教育総務課長　　今、御意見をいただいたとおりだと思いますので、これからいろいろなことを考えて、教育フォーラムだけではなくて、地域運営学校についていろいろな方と話し合う機会を増やしていきたいと思っています。

今回の御意見の中でもあったのですが、多分自分たちがやっていけないといけな方向性は皆さん共有できたとは思いますが、では具体的に何をやるのかということころまでは、残念ながら話が至らず、時間が1時間半しかございませんでしたので、次は一つずつの課題をもっと深めて、具体的な方法なども探っていけたらと思っています。

金山委員　　熟議に関しては、初回にしてはとてもおもしろく、例年に増して多くの方が来られたということは、それだけ学校の協議会、地域運営学校が皆さん何かになるだろうという意識があるということだと思います。とてもおもしろい取り組みですし、ひざ詰めで話ができるという点でもとてもいいものだったと思います。

ただ、さっき和田委員がおっしゃいましたように、テーマ別とか、例えば、ちょっと話が出ましたが、地域別で中学校で言えば4ブロックありますから、八王子は地域ごとに特性が大きいので、地域ごとに異なった課題というものがあると思いますので、そういう形でもできるかなと、その方が議論しやすいというお話も耳にしました。

それから、地域別ということで、今、ニュータウン地区で学校コーディネーターが、ニュータウン地区の特性を生かした教育支援ができないかということで、集まりかけています。そこで、学校コーディネーターは地域運営学校としてその中に飛び込んでいただいて、中で活発に活動していただくというのが前提ですので、地域で集まるということは、八王子市の中では多分初めての試みだと思いますけれども、先生方、コーディネ

ーターから自発的に出てきた動きですので、そこを大事にさせていただいて、そこでうまくいったことは全市に展開するという形にできればいいかなと思っています。

川上委員 皆さんがおっしゃっていること、そのままそのとおりだと思っています。すごく構えて、非常に大きく準備を整えていらしたので、これだけの結果が出たと思います。もちろんこの地域運営学校だけに限らず、教育フォーラムという形をもっともっと回数を増やして、定例会は月に2回程開催していますけれども、そのうちの何カ月かに1回、そのくらいやってもいいのではと思ったりしました。いろいろな効果が出てきているとか、結果が出てきたところまで、私たちも確認をさせていただきたいし、私たちもそこに参加させていただきたいと思ったりするのです。それがしていいことかどうかというのはわかりませんが。

それと、このところに出ている感想、御意見の中で、具体的に結果を出したいという気持ちがたくさんあらわれているのではないかと思いますので、今、申し上げたようなことで、やはり余り大げさに考えなくても何かできるのではないかなという気がいたします。

小田原委員長 熟議の中で、私も申し上げたのですが、先ほど和田委員が、海外の地域運営学校の例を問題として挙げましたけれども、日本の場合には法律があって、学校というものはこういうものだと決まっています、人事や予算の権限はそれぞれのところが持っているわけで、地域運営学校はそういう点では、意見は言うことはできても、人事権や予算権といった実権がないわけで、これはどうしようもないわけです。

感想の中にも理想と現実の差を感じるというものがあるけれども、理想は理想として、こういうものなのだけれども、現実はこのなかから、その中でどうやっていくか、理想にどう近づけていくかということを考えていくことだろうと思うのです。

いずれ法律を変えていかなければいけないだろうというところを視野に、地域運営学校というのは積み上げていく必要があるだろうと私は思っています。それは、本市が進めている小中一貫教育だとか、あるいは学校選択制と、全く矛盾するものではないと思っています。

それぞれが別のことだと思っていると、おかしいことをやっているのではないかとと思われるところがあるかもしれませんが、決してそういうことはないのだということです。

それと、ここにいろいろな意見、感想があるのだけれども、これを整理してみるとど

うということになるのか、我々としては、きちんとやっておかななくてはいけないだろうと思うのです。特に気になっているのは、宮上中学校の会長が言ったことに対して、「学校は地域をつくるために地域運営学校をやっているのではない」という意見が載っているのですが、発言の内容はそういうふうに言っていたわけではなくて、スクールコミュニティとコミュニティスクールと、両方並べて言っていたのではないかと思うのですが、どこかの小学校の副校長も、地域のためにやっているわけではないのだということを感じとして書いているわけです。地域のためにやっているのではない、学校のためにやっているのではないと分けるのではなくて、お互いのためにやっているわけであって、お互いが向上するというか、進化するというか、そういうことで制度を取り入れてやっていこうとしているわけだから、そういう視点を失ってはならない。それをぜひ整理していかなければいけないだろうと思います。

もう一つは、この熟議というやり方は、いろいろなことの課題を挙げて、どう解決していくかというのを、グルーピングしながら整理していったわけで、その過程がどこかに消えてしまっているわけです。我々の中に残っているのだけれども、それをもう一回整理して示す必要があるのではないかと思うのです。いろいろなことがあって、それを整理するとこうなるという過程が重要なのであって、お互いにこうしようという意見の一致を見ようというのが熟議の趣旨ではなかったわけですから、それをどうにかする必要があるのでないかと思うのです。

それからこれが大事なことだと思うのだけれども、今、川上委員から、こういう熟議なり教育フォーラムを進めるべきだという話がありましたけれども、この熟議を我々の段階でとどめるのではなくて、各地域、学校でそれをもっと深める、進める、それぞれのところで熟議を催して行っていただきたいということです。それがまた必要なことだろうと思いますので、そうしたところを忘れないで進めていきたいなと思っています。

石川教育長　　今、委員長にまとめていただいたような形になりましたけれども、私も委員長が指摘した、コミュニティスクールのためにコミュニティがあるのではなく、相互に高め合わない、あまり意味がないと思うのです。

私も毎年、年度初めに指定校になったところの辞令交付に行き、全部は行けませんから幾つかに行くわけですが、そこで必ず話すのは、地域運営学校というのは学校を変えるための一つのツールだと考えてもらっていいということ。それによって結果として学校が活性化し、そこから子どもたちが素晴らしい人材として巣立つ、そういう

ことを期待していて、あわせて、このことを通して、地域がさらに活性化し、そこからまたその子どもたちが輩出できる、そういうことが期待されているので、両方やらないと意味がないということを言っているのです。

今、国でも社会総がかりでの教育ということを行っていますので、いろいろなところから教育に関心を持ってもらって、皆が子どもに目を向けて将来の社会を担う人材を育てていかなければいけないのだろうという思いでいます。

ですから我々がここでフォーラムをやるのも、できるだけ関係者だけでなく、一般の市民にもそういう意識を持ってもらう、教育に関心を持ってもらうというの、この事業の大きなねらいでもありますので、できるだけ広くとらえていただきたいという感じがします。

昨日もある校長と話をしたのですけれども、この結果をぜひ実現させてほしいと。それは当事者にしてみればそういう思いは当然あるのだろうと思います。できることとできないことがありますから、その辺はきちんと精査をする中で、できるものについてはできるだけそれをやる、実現する、そういう努力は我々もしなければいけない。けれども、今、一番大事なことは、いろいろな人たちの意識を変えることだろうと思います。当初からお金がない中で、どうしたら学校の活性化ができるかということも大きな命題ですから。けれども、ある程度の運営資金というのは必要なわけで、そこをどうやって捻出するか。

私はその熟議の中でちょっとしむけたのです。これから理想に近づける上では、それぞれの学校運営協議会の事務局の体制をもっと強化しないと、なかなかうまくいきませんよと。そのためには、人もお金もどうしても出てくるわけで、人はボランティア等に頼るといってもありなのだけれども、お金の工面をどうするか。この辺をぜひ皆さん知恵を出してほしいと言ったのですけれども、その部分についての議論はされませんでした。

私、事務局に調査をしてもらいたいのですけれども、公立学校では、どのくらい寄附行為のような形でお金が集められるのか、あるいは行政がやっている事業の中で、学校運営協議会に取り込んでできるのか。例えば、八王子市では総合型地域スポーツクラブをもう20カ所ぐらいでやっていますかね。そういうのを学校運営協議会の中に取り入れて、そこに何らかの補助金が出ていますから、それを資金にして学校運営協議会で運営ができないか。あるいは、学校施設開放員などにもお金が出ているわけで、その辺の

業務も学校運営協議会が請け負って、そのお金で事務局の体制強化ができないか。あるいは学童の問題とか、放課後子ども教室だとか、あるいは企業を巻き込んでネーミングライツのような形で広告を取りながらできないか、大学と連携して、これから大学は特にインターンシップ等で現場に出ていくことが多いわけで、そういうところで何らかの応援をしてもらえないか。これは相互に利益がある話ですから、そんなことも私はできるのではないかなと思っているのです。

そのほかに、例えば、私がいた西高の例をお話すれば、財団法人西高会というのがあるって、これは学校と保護者と同窓会、三者がお金を出し合って設立したわけですがけれども、この財団から、かなりの援助を受けて学校運営をしているわけで、こうしたことが公立の小・中学校でできないのかどうか。法人については、いろいろな改革の中で制約もあるようですが、さまざまなことをできるだけ情報として収集をした上で、これならできるというものをある程度示してもらえると、もっともっと学校はやりやすくなるのではないかと思います。ぜひその辺の調査をしていただきたいというのが、私のお願いでもあります。

穴井教育総務課長　今の件については、私どもの方でもぜひ調査もしたいですし、モデルとまではいなくても、幾つかの学校の校長先生には相談をしているところですので、詳しくその辺の法律的な整理も含めて、調査をしたいと思っています。

あと、事務局体制の強化については、先ほど金山委員がおっしゃったブロック、地域で会議をやるのに合わせて、私どもの方でも学校事務職員体制に結びつける部分があるのかどうか、あるとすればどうやったらいいのか。そういったところも検討していきたいと考えています。

小田原委員長　教育長の話は、いろいろな問題点を示唆してくれていると思うのです。一つ一つについては申し上げられませんが、まずこの意見、感想の中で幾人かが挙げていますが、教育を支援するシステムであるPTAなどの関連組織が、ばらばらであったり、連携がなかったり、かかわり方が違うというのがあるわけだけでも、これをスリムにして、地域運営学校に集約していく、収斂という言葉の方がいいのでしょうか、そういうことが必要だろうということです。

それから、事務局の事務職員をどういうふうにするかということについては、前にも言ったような気がする随分古い話になるのだけれども、学事出版から出版されている「学校事務」という雑誌で、2005年頃に、地域運営学校、開かれた学校の特集があ

って、学校事務が非常に深くかかわって地域運営学校をつくっていているという話があるのだけれども、それが教育総務課長の話に連動して行くのだらうと思いますので、参考になるだらうと思います。

それから、教育長のお話がいろいろあったのですけれども、調査したり、まとめたりする中で、これをさらに生かしていく手だてをぜひ考えていただきたいと思います。

教育長が、毎年、年頭訓示でお話されているのだけれども、その趣旨を考えたときに、八王子としては、他市がしているような各学校でこれをやってくださいというトップダウンではなくて、自ら手を挙げたところから導入していくのだと。それが本来の趣旨を生かしていくことになるので、ぜひその方向性をお互いに確認しながら、さらに地域、市民、学校に意識を持ってもらうという方向を考えていただきたいなと思います。

教育フォーラムについて、そのほかございませんか。

事務局はいろいろ課題を背負っていくことになりましてけれども、よろしく願いいたします。

次に、指導課から報告願います。

廣瀬指導課長 死亡者叙位の受章について報告いたします。受章者でございますが、元八王子市立第五中学校長、田所理作、享年94歳でした。

受賞内容は、叙位が従五位、発令年月日は死亡日の平成23年7月15日。

経歴といたしまして、教育公務員歴が43年、校長歴は八王子市内の中学校、川口中学校、横山中学校、第五中学校で15年でございます。なお、御遺族への伝達式は11月22日火曜日に行われる予定です。

小田原委員長 死亡者叙位の受章についてですが、本件につきまして御質疑、御意見ございませんか。

94歳という年の方になりますと、教育公務員歴43年という長い方です。定年のなかかったころなのか、その前の経歴もあるということでしょうか。

他に御質疑はございませんか。ないようですので、次に、生涯学習総務課から報告願います。

宮木生涯学習総務課長 平成24年成人式につきまして、担当の串田主査から御報告申し上げます。

串田生涯学習総務課主査 平成24年成人式について、説明させていただきます。

開催目的は、新しく成人となった若者に、成人としての責任の自覚を促すとともに、

祝い、励ますこととさせていただきます。

開催日時は、平成24年1月9日成人の日で、午前10時から11時と、午後0時30分から午後1時30分の2回、開催いたします。会場はオリンパスホール八王子でございます。

対象者は、平成3年4月2日から平成4年4月1日までに生まれた方で、対象者の人数につきましては、10月18日現在ですが7,927名、参加予想人数は約3,400名と予想しております。

続きましてプログラムです。初めに式典の部でございます。開式の辞で始まり、国歌・市歌斉唱、主催者式辞、来賓祝辞、来賓紹介、新成人の主張、最後に閉式の辞となります。国歌・市歌斉唱につきましては、共立女子第二中学校・高等学校コーラス部をお願いしております。共立女子第二中学校・高等学校コーラス部につきましては、東京都合唱コンクールにおいて銀賞を受賞するなど、素晴らしい功績をおさめております

次にアトラクションの部でございます。ビデオレターによる新成人へのメッセージとして、八王子市出身であり、観光大使でありますFUNKY MONKEY BABYSをお願いしております。次に吹奏楽として、八王子高等学校吹奏楽部に演奏をお願いしております。八王子高等学校吹奏楽部は、東京都吹奏楽部コンクールにおきまして金賞を受賞するなど、素晴らしい功績をおさめております。

またこの成人式は、成人式実行委員会とともに内容を決定してまいりました。成人式実行委員会は、7名で構成されておまして、うち新成人が5名となっております。当日は、2分の1成人式を実施しております小学校が作成したお祝いの寄せ書きメッセージを会場に掲示をし、後日、新成人からお礼のメッセージを小学校に返していきたいと思っております。

教育委員の皆様への御出席のお願いの文書は、12月の定例会の際に事務局よりお渡しさせていただきますので、よろしく願いいたします。

説明は以上でございます。

小田原委員長 生涯学習総務課からの説明は終わりました。本件につきまして御質疑、御意見ございませんか。

オリンパスホールでやるのは初めてということになるわけですね。その問題点はどういうふうに考えていますか。

串田生涯学習総務課主査 オリンパスホールにつきましては、旧市民会館と違いまして間

口が狭いというのでしょうか、入口、出口の狭さと、エスカレーターですとか階段も狭いというところがございます、オリンパスホールのスタッフ等と、安全確保というところで調整をしております。当日は安全第一ということで、人員を確保しながら、安全に努めていきたいと考えております。

小田原委員長 前の市民会館での混雑を考えると、駅前で、かつ4階、5階のスペースで対応できるかどうか、かなり心配な部分があると思うのですが、万全を期するのは当然として、具体的にどうするかということですよ。

宮木生涯学習総務課長 昨年までと大きく違う点は、第1回と第2回の間を30分ほど長くしまして、1時間半となっております。この1時間半で、果たして入れかえがスムーズにできるかどうかわからないのですが、この30分を有効に生かして、円滑に入れかえをしたいと思っています。

小田原委員長 時間を長く取れば、入れかえがスムーズにいくとは思えない状況ですよ。長くすれば余計混乱する、わいわいがやがや長くなるだけのような感じもするわけです。どうやって入れかえるかということは、いろいろ考えていらっしゃると思うのだけれども。

前の中学校の音楽会のお話を思い出すと、非常階段を使えばスムーズにいったという話があるわけです。だから、入口と出口を変えてしまえば、早くできるのだけれども、それは危険度が増すこともありますし、非常口から出すのはいかなものかということもありますので、そうすると、この正面から入れかえするとすれば、やはり何らかの工夫が必要だということです。

それと、2分の1成人式の子どもたちのメッセージや飾りが、前の市民会館のときには余り注目されていなかった。私の感想としては、余り生かされていないと思います。後日、新成人が2分の1成人の皆さんにお礼の返事をするということがあるとしても、当日はあそこにメッセージや飾りが出される、今度の会場ではもっと難しくなるだろうと思われるので、生かされる形をもっと考えていかないといけないだろうと思います。

2分の1成人は、八王子にいっぱいいるわけで、参加する学校だけではないと思うのだけれども、その2分の1成人が、あと10年経てば成人式を迎えるわけだから、大事な2分の1成人式だと思うのです。それをもう少し「自分たちも2分の1成人式をやったよかったな」と何らかの形でかかわったという意識を持たせていくことが、本来の成人式を成功させる、意味があるものにしていくもとなるだろうと思いますので、その

意識づけも考えていていただきたいと思います。

和田委員　あまり思いつきでいろいろなことを言うのは申し訳ないと思っているのですが、いろいろな要望を出せば切りがないのだけれども、FUNKY MONKEY BABYSを呼ぶようなことができないのかとか、そんなことも言ったら切りがなくなってしまうのだけれども、今、委員長が言われたことに関して申し上げますと、私は小学生の2分の1成人式のメッセージは、むしろこういうビデオレターで自分たちのお兄さん、お姉さんという声を届けてあげられるような形の方が、私は会場の雰囲気も変わってくるし、成人としての意識づけも変わってくるのではないかと感じているのです。特に今度、会場が変わるわけだから、何か今までと少し違ったメッセージが伝えられるといいなと思います。

宮木生涯学習総務課長　今の和田委員の御提案、間に合うかどうかわかりませんが、成人式実行委員会にもお諮りして、検討させていただきたいと思います。多分、来年については難しいと思いますので、また再来年以降、生かしていきたいと思います。

小田原委員長　和田委員の2分の1成人がメッセージを送る、それは出来ると思いますよ、まだ2ヶ月あるのだから。だけど実行委員会がそれを進めていく、組織としてやっているの、そこで間に合うのかどうか、できるだけそこがいいとなれば出来る形で進めていていただきたいですね。思いつきだけでとどまらない部分もあると思いますので、いろいろ出していただきたいと思います。

川上委員　毎年、FUNKY MONKEY BABYSですか。ということは、実行委員会の会長は、毎年変わるのですか。

宮木生涯学習総務課長　実行委員会は、公募でやっていますので、今までに2年続けてという委員もいらっしゃいますけれども、会長は変わっています。今回のFUNKY MONKEY BABYSのビデオレターも、実行委員会の強い要望があり、取り上げました。

川上委員　今年は、予想の来場者数が3,000人ということで、それを2回に分けるわけです。ということは、1回が少なくなるわけですか。会場の広さに比べて、余裕があるということになりますか。

宮木生涯学習総務課長　昨年は実は、出席者が3,155人だったのです。それでも皆さん、御承知だと思うのですが、ほぼいっぱい、入り切らないような状況もございました。会場の広さは、旧市民会館と変わりませんので、3,400人ですと、実際

はかなりの混雑が見込まれます。

小田原委員長　新しいホールだから、参加者は増えて、大変混雑すると思います。

川上委員　主役は新成人ですから、私たちができることがあれば何でもいたしましょうということですが、私も、先ほど委員長がおっしゃったように、何とか1時間半の間にスムーズに入れかえができればいいと思っています。

小田原委員長　社会人としての一步を踏み出すという、それをお祝いする会ですから、意識づけも必要だということですよ。ここは思い切った形で臨むことが必要だろうと思います。

人数のこともありますので、例えば、いっぱいになった場合には我々とか、来賓の席をあけるといっても、それもすぐにできるような体制を、常に念頭に置いて対応していくことが必要だろうと思います。ぜひその辺も含めて準備をしていただきたいと思います。また差し迫って来ておりますので、大変忙しい中での準備だと思います。よろしくお願いしたいと思います。

生涯学習総務課からの報告は以上ですが、ほかに何か報告する事項等がございますか。

坂倉学校教育部長　特にございません。

小田原委員長　委員の皆様で何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長　他にはないようでございますので、以上で本定例会の議事日程はすべて終了いたしました。

これをもちまして、本定例会を終了いたします。お疲れさまでした。

〔午前9時52分閉会〕